

離島振興対策実施地域の指定解除について

平成24年2月1日

長崎県伊王島（伊王島）の離島振興対策実施地域の
指定解除について

伊王島の生活環境の向上、観光振興や救急医療体制の確立を目的として、長崎県が事業主体となり、伊王島大橋が建設されたところである。

この伊王島大橋は、本土（長崎県長崎市香焼町）から長崎県伊王島を結ぶ事業で平成23年3月27日に供用開始している。

（橋梁延長 876m）



人口：807人
（平成17年国勢調査）

伊王島大橋
平成23年3月27日開通

1 調査対象地域

長崎県伊王島の概要

県・市町村名	長崎県長崎市	
指定地域	伊王島	
島名	伊王島、沖之島	
面積	伊王島1.24 km ² 、沖之島0.94 km ²	
人口（H17国調）	807人	
島の性格類型	外海・本土近接型	
指定	回次	第2次指定
	年月日	S28.12.21
就業者数 (H17国調)	第1次産業	24人
	第2次産業	46人
	第3次産業	227人
学校数	保育所数	1
	小学校数	1
	中学校数	1

2 離島振興対策実施地域の指定解除基準について

離島振興対策実施地域の指定解除基準について（抄）

（昭和53年3月27日 第43回審議会決定）

離島振興法に基づく離島振興対策実施地域を含む島しょに、同法及び他の法律に基づき架橋事業等が行われた場合の離島振興対策実施地域の取り扱いについて

離島振興法に基づく離島振興対策実施地域を含む島しょに、同法及び他の法律（これに基づく命令を含む。）に基づき、架橋事業等が行われ、これによって、当該島しょに係る離島振興対策実施地域の全部又は一部と本土との間に常時陸上交通が確保されることになった場合には、同法にいう「隔絶性」が解消するものとして、当該地域の全部又は一部について指定を解除するものとする。

この場合、準備にあてるため、上記の要件に該当することになる年度の次の年度に限り、指定の解除を猶予することができるものとする。

現地調査報告

長崎県伊王島（伊王島、沖之島）現地調査について（報告）

（１）調査期間 平成23年10月28日（金）

（２）調査結果（所見）

① 架橋による変化等

- ・伊王島内にあるレジャー施設「やすらぎ伊王島」の利用者数について、架橋前の平成22年4月～9月と架橋後の平成23年4月～9月を比較すると、約3割増加しており、賑わいを見せている。
- ・買い物や通院、急病の場合などに、陸路で迅速に移動できるようになったため、住民生活の利便性が向上した。
- ・安価で品揃え豊富な島外の大規模商業施設で買い物をすることができるようになった。反面、島内の店舗の売り上げは減少している。
- ・伊王島の市営住宅の公募をかけると、5件、6件と応募が来るような状況であり、地元では伊王島への移住希望者は増加しているという感覚がある。
- ・架橋後の人口推移を見ると、若干だが人口が増加した。
(平成23年3月末768人、平成23年8月末774人 +6人)
- ・航路について、架橋前と同じ1日11便が運航されている。
- ・本土と伊王島を結ぶバス路線が新たに開設され、1日3便が運航されている。
- ・島民の通勤は多くが自家用車での通勤に変更している。通学、通院については、路線バスの接続が不便であることもあり、航路の利用が依然として中心となっている。
- ・昼夜を問わず、釣り人の来訪や密漁、自然草木や農産物の無断伐採や採取が増加している。それに伴う路上駐車が増加も問題となっている。
- ・島内には狭隘な道路も多く、観光客等がその道路に入り込み離合が出来ず立ち往生する場合があるほか、交通事故の心配も増えるなど、住民生活に不安や支障を来している。

② 離島振興対策実施地域からの解除について

指定解除の要件を満たしており、解除することが適当である。

② その他特筆すべき事項

- ・ 架橋を活かした地域づくりを行うことが重要であり、具体的には、以下の点について取り組んでいくことが望まれる。
- － 当該地域はインフラ整備効果と長崎都市圏内の市民及び観光需要があるので、架橋直後の観光需要がそんなに大きくは落ちこまないと考えられる。このような状況を見越した上で、この観光需要に対応した観光地場産業を興すことも1つのあり方。
- － 特に、地域資源をうまく活かす形で、宿泊機能を拠点にして滞在体験型観光に取り組んでみる。
- － 長崎都市圏内の島リゾートといった立地特性や空いた公営住宅等を活かして島外から若い人に来住してもらい、例えば若者がマーケティング等を担当し、島民は伝統的なものづくりを担うといった連携を行うなど、地域おこしや観光企画等にかかわってもらふことなども促進し、定住人口の増加と観光、地場産業振興等を進める一石二鳥、三鳥を構想として考えてみる。

国土審議会離島振興対策分科会委員

阿比留 勝利

山下 東子

渡 邊 東

[参考] 長崎県伊王島現地調査(平成23年10月28日)

伊王島の概要

○伊王島の概要

- ・人口:807人(H17国調)
- ・「伊王島」と呼ばれているが、「伊王島」と「沖之島」の2島からなる。
- ・2島は幅10mの瀬戸で隔てられているが、3カ所の橋で結ばれ、一体化している。



○伊王島大橋

- ・橋長:876m 事業費約60億円
- ・平成23年3月27日開通
- ・本土と伊王島を結ぶバス路線が開通され、1日3便運航されている。



島内の状況

○伊王島海水浴場「コスタ・デル・ソル」

海浜総延長 340m 利用者は、架橋後に微増(4%増)



○やすらぎ伊王島

利用者数について、架橋前の平成22年4月～9月と架橋後の平成23年4月～9月を比較すると、約3割増加しており、賑わいを見せている。



○長崎県伊王島聴取会

- ・買い物や通院、急病の場合などに、陸路で迅速に移動できるようになったため、住民性格の利便性が向上した。
- ・島内には狭隘な道路も多く、観光客等が立ち往生する場合はあるほか、交通事故の心配も増えるなど、住民生活に不安や支障を来している。



〔参考〕 最近の指定解除事例

指 定 解 除 年 次	告 示 番 号	告 示 年 . 月 . 日	解 除 年 . 月 . 日	地 域 名	解 除 地 域		備 考
第14次指定 解除	総理府告示 第5号	H5.3.9	H5.4.1	生月島	長崎県	北松浦郡生月町	昭和28年12月23日総 理府告示第261号で指 定した生月島を解除す る。
				芸備群島	広島県	因島市原町、洲江 町、豊田郡瀬戸田町 高根島、大字萩、大 字御寺、大字宮原、 大字名荷	昭和36年9月27日総 理府告示第25号で指 定した高根島及び昭和39 年7月9日総理府告示 第26号で指定した生口 島を解除する。
第15次指定 解除	総理府告示 第8号	H10.3.3	H10.4.1	長 島	鹿児島県	出水郡東町伊唐島	昭和28年10月28日総 理府告示第212号で指 定した長島地域の一部 を解除する。
第16次指定 解除	総理府告示 第64号	H12.12.20	H13.4.1	大 島	和歌山県	西牟婁郡串本町大 島	昭和29年10月14日総 理府告示第854号で指 定した大島を解除す る。
				蒲刈群島	広島県	安芸郡蒲刈町、下蒲 刈町	昭和36年9月27日総 理府告示第25号で指 定した蒲刈群島を解除 する。
				越智諸島	愛媛県	越智郡吉海町(津島 を除く。)、宮窪町(鷗 島を除く。)、伯方町、 上浦町、大三島町	昭和39年7月9日総 理府告示第26号で指 定した越智諸島の一部 を解除する。
				蠣ノ浦大島	長崎県	西彼杵郡崎戸町(江 ノ島、平島、御床島、 芋島を除く。)、大島町 (端ノ島及び中ノ島を 除く。)	昭和28年12月23日総 理府告示第261号で指 定した蠣ノ浦大島の一 部を解除する。
第17次指定 解除	総務省 農林水産省 国土交通省 告示第1号	H14.3.27	H14.4.1	角 島	山口県	豊浦郡豊北町角島	昭和32年12月25日総 理府告示第509号で指 定した角島を解除す る。
第18次指定 解除	総務省 農林水産省 国土交通省 告示第7号	H22.3.26	H22.4.1	下大崎群島	広島県	呉市豊島	昭和34年5月12日総 理府告示第226号で指 定した豊島を解除する。
				下大崎群島	広島県	呉市大崎下島	昭和36年9月27日総 理府告示第215号で指 定した下大崎群島の一 部を解除する。
				関前諸島	愛媛県	今治市岡村島	昭和34年5月12日総 理府告示第226号で指 定した関前諸島の一部 を解除する。
第19次指定 解除	総務省 農林水産省 国土交通省 告示第1号	H23.3.2	H23.4.1	平戸諸島	長崎県	松浦市鷹島(旧鷹島 村)	昭和28年12月23日総 理府告示第261号で指 定した鷹島を解除す る。

〔参考〕 指定及び指定解除の経緯

指定等年次	告 示 年 月 日	指定及び指定 解除年月日	告 示 番 号
第 1 次指定	昭和28. 10. 28	昭和28. 10. 26	総理府告示第 212 号
第 2 次指定	28. 12. 23	28. 12. 21	〃 第 261 号
第 3 次指定	29. 10. 14	29. 10. 12	〃 第 854 号
第 4 次指定	30. 7. 19	30. 7. 15	〃 第 1337 号
第 5 次指定	30. 10. 20	30. 10. 18	〃 第 1466 号
第 6 次指定	32. 8. 16	32. 8. 14	〃 第 379 号
第 7 次指定	32. 12. 25	32. 12. 23	〃 第 509 号
第 8 次指定	34. 5. 12	34. 5. 8	〃 第 226 号
第 9 次指定	36. 9. 27	36. 9. 25	〃 第 25 号
第 10 次指定	39. 7. 9	39. 7. 7	〃 第 26 号
第 10 次追加指定	42. 8. 26	42. 8. 18	〃 第 42 号
第 11 次指定	平成12. 12. 28	平成12. 12. 15	〃 第 81 号
第 1 次指定解除	昭和42. 8. 26	昭和43. 3. 31	〃 第 43 号
第 2 次指定解除	44. 3. 25	44. 3. 31	〃 第 10 号
第 3 次指定解除	45. 3. 28	45. 3. 31	〃 第 9 号
第 4 次指定解除	46. 3. 30	46. 3. 31	〃 第 10 号
第 5 次指定解除	50. 3. 31	50. 3. 31	〃 第 13 号
第 6 次指定解除	51. 3. 31	51. 3. 31	〃 第 13 号
第 7 次指定解除	53. 10. 18	54. 3. 31	〃 第 33 号
第 8 次指定解除	54. 3. 20	55. 4. 1	〃 第 7 号
第 9 次指定解除	57. 7. 24	58. 4. 1	〃 第 26 号
第 10 次指定解除	58. 11. 26	59. 4. 1	〃 第 32 号
第 11 次指定解除	60. 3. 11	60. 4. 1	〃 第 7 号
第 12 次指定解除	62. 12. 22	63. 4. 1	〃 第 26 号
第 13 次指定解除	平成 2. 12. 27	平成 3. 4. 1	〃 第 49 号
第 14 次指定解除	平成 5. 3. 9	平成 5. 4. 1	〃 第 5 号
第 15 次指定解除	平成10. 3. 3	平成10. 4. 1	〃 第 8 号
第 16 次指定解除	平成12. 12. 20	平成13. 4. 1	〃 第 64 号
第 17 次指定解除	平成14. 3. 27	平成14. 4. 1	総 務 省 農林水産省 告示第1号 国土交通省
第 18 次指定解除	平成22. 3. 26	平成22. 4. 1	総 務 省 農林水産省 告示第7号 国土交通省
第 19 次指定解除	平成23. 3. 2	平成23. 4. 1	総 務 省 農林水産省 告示第1号 国土交通省

〔国土審議会第7回離島振興対策分科会資料〕

参考資料

指定解除予定地域の概要

平成24年2月1日

長崎県伊王島の概要

平成24年2月

長崎県長崎市

1 長崎県伊王島の概要

(1) 位置と地勢

伊王島は、長崎市中心部の南西10kmに位置し、長崎港の沖合いに南北に連なる丘陵状の二つの島、伊王島(周囲7.1km、面積1.25㎡)と沖之島(周囲5.1km、面積0.95㎡)からなる外海本土近接型離島である。幅10mの瀬戸で隔てられた二つの島は三つの橋で結ばれ、平成23年3月27日に開通した伊王島大橋により香焼町と結ばれ本土となった。

平成17年1月4日に旧長崎市、旧香焼町、旧高島町、旧三和町、旧野母崎町、旧外海町と合併し現在の長崎市伊王島町となった。

(2) 離島振興対策実施地域の指定

第2次指定

(指定日: 昭和28年12月21日 告示日: 昭和28年12月23日 総理府告示第261号)

(3) 人口、世帯の状況

人口及び世帯数は、平成17年国勢調査で807人、404世帯であり、平成12年国勢調査に比べて人口は22.0%の減となっており、漸減傾向にある。高齢化率は、平成17年国勢調査で44.4%で、漸増傾向にある。

国勢調査における人口と高齢者率の推移

	人口(人)	左のうち 高齢者数(人)	高齢者 比率(%)	世帯
平成2年	1,233	338	27.4	546
平成7年	1,160	378	32.6	560
平成12年	1,035	396	38.3	499
平成17年	807	358	44.4	404
平成17年/平成12年(%)	78.0	90.4		81.0
(参考)平成22年末	774	381	49.2	451

(4) 市町村の財政状況

長崎市の平成21年度の一般会計及び特別会計の決算状況は、歳入307,876百万円に対し、歳出額は304,193百万円となっており、対前年度比でそれぞれ0.5%、2.8%の増となっている。

財政指数の状況

財政指標名	平成20年度決算A	平成21年度決算B	差引 B-A
実質赤字比率	1.20	2.25	1.05
連結実質赤字比率	20.26	20.27	0.01
実質公債費比率	13.1	13.3	0.2
将来負担率	115.7	105.3	△ 10.4
財政力指数	0.58	0.58	0.00
経常収支比率	96.5	96.1	△ 0.4

(5) 産業の状況

唯一の基幹産業であった炭鉱が昭和47年に閉山したことにより人口は激減し、石炭産業とともに繁栄していた商工業も人口の減少に伴い衰退していった。また、農業は農地が狭あいだ丘陵状のため、機械化、大型化が困難であり、水産業についても刺し網漁、一本釣等沿岸漁業が主体で資源の枯渇、魚価の低迷等により厳しい経営状況にある。加えて、両産業とも高齢化、後継者不足など取り巻く社会環境は厳しい中、就労環境の改善を図っている。

近年、リゾート温泉施設の開業により交流人口は拡大しており、新たな基幹産業となりつつある。

1. 就業者数(平成17年国勢調査)

第1次産業:24人(農業4人、漁業20人)

第2次産業:46人(建設業28人、製造業18人)

第3次産業:227人

2. 事業所数(平成18年事業所・企業統計調査)

第1次産業:-(農業-、漁業-)

第2次産業:7(建設業7、製造業-)

第3次産業:51

3. 農業・漁業の状況(2010農林業センサス 2008漁業センサス)

農業経営体数:1

漁業経営体数:26

(6) 観光の状況

伊王島は、誘致したリゾート施設を基本に「交流と癒しの島」として明日への活力を生み出せるようなリゾート産業を目指している。島内各所に点在する名所旧跡をリゾート施設を中心として有機的に連結した観光ルートを整備するとともに道路及び駐車場の整備を行い交流人口の拡大を図っている。また平成23年3月27日に開通した伊王島大橋により長崎半島を含めた広域観光ルートの開発に努めている。

平成22年の入込客数:160,944人(平成21年:160,145人)

平成22年の宿泊客数:94,780人(平成21年:77,835人)

(7) 交通の状況

1. 道路

一般県道伊王島線(2.27km)が縦貫し、この道路を起点として市道(17.5km)が分岐して島内の道路網を形成している。県道は、基幹道路として逐次改良整備が必要である。市道については、丘陵・傾斜地であり、狭小なため自動車不通市道も多いことから、市町村建設計画に基づき、住環境改善や障害者・高齢者に配慮した整備を進めていく必要がある。

加えて、平成23年3月27日の伊王島大橋開通により交通量は増大しているため、安全・安心の観点からも整備が必要である。

2. 港湾

伊王島港が唯一の港湾である。漁港として、沖之島漁港がある。

3. 空港

該当なし。

4. 航路

航路については、伊王島～大波止間を結ぶ民間旅客船が1日11往復運航している。その経費については長崎県と長崎市が赤字補てんしている。

5. 航空路

該当なし。

6. バス路線

本土と伊王島間を結ぶバス路線としては、民間による1日3便のみである。また、島内のバス路線としては、1日10便程度が運行しているが、その経費については、長崎市が赤字を補てんしている。

(8) 生活環境の状況

1. 水道

配水施設として、本土(長崎市水道事業)から伊王島大橋を通じて配水管を引いて島内全域に給水を行っている。架橋前は海底送水管により水資源を確保していた。

2. 廃棄物

ゴミ処理については、架橋後本土にある西工場に運搬し処理している。架橋前は、旧町から引き継いだ清掃工場で焼却していたが、処理費、施設維持費等が多大となる為、一定量貯留し船舶で西工場に運搬処理していた。下水道敷設は概ね終了し、普及率は、99.3%であり、架橋前から島内の終末処理場で処理している。し尿処理は本土側施設で処理している。架橋前は、終末処理場において処理していた。

3. 電気

電気は、伊王島大橋を通じて送電線で結ばれ、緊急時の予備電源として海底ケーブルで送電線を引いている。架橋前は、大中瀬戸を跨ぐ高圧線で送電していた。海底ケーブルによる送電線を併設していた。

4. 電話(通信)

電話は、架橋前は、大中瀬戸を海底ケーブルで電話回線を繋いでいた。架橋後は伊王島大橋を通じて結ばれている。ブロードバンドの整備については、ADSLが利用可能である。地デジ対応については、稲佐山中継局から受信可能であり、居住地域全域受信が可能となっている。

5. 医療

医療については、国保直営診療所が1箇所あり、内科診療及び週2回の歯科診療を実施している。

救急対応については、主に長崎市南消防署土井首出張所の高規格救急車により対応している。

架橋前は、伊王島行政センター管理の救急艇「いおうじま」により市内大波止に搬送していた。重篤で緊急性が高い場合は、救急ヘリで対応していた。

6. 消防

伊王島における消防体制は、架橋前から常備消防として長崎市南消防署伊王島派出所が設置され、非常備消防として1個分団(4部)が配置されている。

7. 教育

教育施設として、架橋前から小学校1校(17人)、中学校1校(11人)、保育所1ヶ所(定員20人)が設置されている。

平成23年3月に中学校を卒業して進学した生徒は5人で、島内に高等学校がないため、本土側の高校に定期船等で通学している。

8. 福祉

架橋前から高齢者福祉施設として高齢者生活福祉センターがあり、指定管理者制度により長崎市社会福祉協議会が管理運営している。また、老人福祉施設として、市が施設を貸付け、長崎市社会福祉協議会が運営する生活支援ハウスや併設するデイサービスセンターがある。また、NPO法人が宅老所、配食・移送・生活応援(介護保険対象外)・子育て応援サービス等を行っている。

(9) 陸上交通確保の状況

伊王島大橋の通行料は無料である。架橋に伴う交通量の増加を見込んで、道路改良及び駐車場の整備を実施している。交通緩和のための改良工事は適宜行っている。

【伊王島大橋概要】

- 事業名 一般県道伊王島香焼線橋梁整備工事
- 工事期間 平成9年度～平成22年度
- 事業延長 2,700m(うち橋梁部 876m、隧道603m)
- 道路幅員 一般部:総幅員 10.0m(路肩含む)
(車道 3.0m×2車線・歩道 2.5m)
橋梁部:総幅員 8.0m(路肩含む)
(車道 2.75m×2車線・歩道 1.5m)
- 橋梁形式 3径間連続鋼床版箱桁橋
- 全体事業費 約 122億円
- 補助率 国費 2/3 県費 1/3
- 通行料 無料

(10)架橋による全体的な評価等
別紙のとおり

橋が架かったことによる全体的な評価

買い物や通院、急病の場合など陸路で迅速に移動できるようになったため、便利になった。また、やすらぎ伊王島を訪れる観光客が増えて非常に賑わいをみせている。その反面、島内の商店などは買い物客が減少し疲弊している。また、車や島外者の出入りが多くなったことにより、事故や事件の発生が増え新たな課題が出てきている。

1. 便利になったところ

- ・生活者にとって買物、観光、レジャーなどの行動範囲や医療機関の受診域の拡大
- ・救急患者の搬送が容易になり、重篤な状態にならなくなり生存率が向上
- ・島外通院が容易になり、高度医療施設や専門医の受診が可能になった。
- ・消防車の出動が24時間可能となり、消防防災体制が充実した。
- ・介護サービスの選択が限られていたが、島外事業者の参入により訪問系、通所系、短期入所系サービスの選択の幅が広がった。
- ・通勤、通学の交通の制約がなくなり、欠航による欠勤、欠席がなくなった。又、残業やクラブ活動が可能となった。離島という制約がなくなったことにより就職がしやすくなった。
- ・漁業においては海上輸送費の低減、出荷時間の制約の解消と短縮や陸路による安定した出荷が可能となった。

2. 橋が架かってからの変化

- ・車によって行動範囲が拡がり島外への志向が強くなっており、地域行事の参加が減少している。
- ・施錠の習慣がないことから空き巣等犯罪者に狙われやすくなった（警戒心が薄く、人が良い）。
- ・来訪者の増加に伴い、ゴミの量も増加した。ポイ捨てや持ち帰らない人が多い。
- ・昼夜を問わない釣人の来訪や密漁者の横行、自然草木や農産物の無断伐採や採取が増加している。それに伴う路上駐車が増加
- ・島内は狭隘な道路が多く、その道路に入り込み離合が出来ず立ち往生するなど、交通事故の発生の恐れがあり、住民生活に不安や支障を来している。
- ・安価で品揃え豊富な島外の商業施設で買物をする人が多くなり、島内の小売店の売り上げは減少している。

3. 今後の課題 など

- ・交通量の増加により高齢者等の交通事故への不安が高まっていることから安全教育の周知、啓蒙活動を推進する必要がある

- ・多くの来訪者のための駐車場など交通施設の整備が必要～交通環境の変化への対応
- ・交通弱者である高齢者のために島内唯一の医療機関の維持の検討
 - 島外通院が困難な高齢者は島内での受診が必要である
- ・防犯や交通安全など急激な変化による生活安全上の不安解消の対策
- ・定期船の維持存続
 - 通勤通学の場所によっては、海上交通が便利な場合もある
- ・島外者のゴミ対策（ポイ捨て、置き去り）
 - 観光客の道德心の向上
- ・島外志向が強くなることによる地域意識の薄れや、伊王島らしさの維持も含め、地域の一体感、連帯感の醸成の推進
- ・IターンUターンを含め地域外からの定住者の増加のための施策の促進
- ・後継者の確保による基幹産業である漁業の振興

(参 考)

○観光客数（統計はとってないため、やすらぎ伊王島の利用者数を記載）

23年	9月： 16, 933人	22年	12月： 9, 224人
	8月： 25, 314人		11月： 13, 102人
	7月： 20, 020人		10月： 14, 832人
	6月： 15, 622人		9月： 12, 995人
	5月： 22, 043人		8月： 22, 830人
	4月： 16, 701人		7月： 16, 036人
	3月： 13, 164人		6月： 11, 300人
	2月： 11, 368人		5月： 15, 491人
	1月： 8, 539人		4月： 12, 063人
			3月： 14, 793人
			2月： 10, 061人
			1月： 9, 772人